

幼稚園令 (大正十五年四月二十一日)  
勅令第七十四號

第一條 幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス

第二條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得

市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ幼稚園ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

第三條 私人ハ本令ニ依リ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得

第四條 幼稚園ハ小學校ニ附設スルコトヲ得

第五條 幼稚園ノ設置廢止ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第六條 幼稚園ニ入園スルコトヲ得ルモノハ三歳ヨリ尋常小學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ幼兒トス但

シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ三歳未滿ノ幼兒ヲ入園セシムルコトヲ得

第七條 幼稚園ニハ園長及相當員數ノ保姆ヲ置クベシ

第八條 園長ハ園務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

園長ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 保姆ハ幼兒ノ保育ヲ掌ル

保姆ハ女子ニシテ保姆免許狀ヲ有スル者タルベシ

第十條 特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ保姆免許狀ヲ有セザル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコトヲ得

第十一條 保姆免許狀ハ地方長官ニ於テ保姆檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

保姆檢定ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ之ヲ行フ

保姆ノ檢定及免許狀ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

保姆ノ檢定及免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 幼稚園ノ職員ニ關シテハ小學校令第四十四條乃至第五十條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 幼稚園ノ設置廢止、保育項目及其ノ程度、編制並設備ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 幼稚園ニ於テ保育料入園料等ヲ徵收セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ額ヲ定ムベシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同ジ

本令施行ノ際現ニ存シ小學校令ニ依リ設置セラレタル幼稚園ハ本令ニ依リ設置セラレタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ幼稚園ノ保姆ノ職ニ在ル者ニシテ小學校ノ本科正教員タルベキ資格ヲ有スルモノニハ地方長官ハ保姆檢定ヲ經ズシテ保姆免許狀ヲ授與スルコトヲ得

〔參照〕

明治三十三年<sup>八月二十日</sup>勅令第三百四十四號小學校令抄錄

第四十四條 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長又ハ市町村學校組合管理者ノ申請ニ依リ町村立小學校長及教員ノ任用ハ郡長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内

外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スベキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失

フ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルベキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

## 勅令第七十五號

公立幼稚園ノ園長及保母ハ判任官ノ待遇トス

附 則

明治四十二年勅令第三百三十五號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十二年<sup>十二月</sup>勅令第三百三十五號ハ市町村立幼稚園長及保母ノ待遇ニ關スル件ナリ  
日公布

幼稚園令施行規則

(大正十五年四月二十二日)  
文部省令第十七號

第一條 幼稚園ニ於テハ幼稚園令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ幼兒ヲ保育スヘシ

幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス

常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメムコトヲ務ムヘシ

第二條 幼稚園ノ保育項目ハ遊戯、唱歌、觀察、談話、手技等トス

第三條 幼稚園ノ幼兒數ハ百二十人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ約二百人マテニ増スコトヲ得

第四條 保母一人ノ保育スル幼兒數ハ約四十人以下トス

第五條 幼稚園ニ於テハ年齢別ニ依リ組ノ編制ヲ爲スヲ常例トス

第六條 幼稚園ニ於テハ保育項目、保育時數、組數等ニ應シ必要ナル員數ノ保姆ヲ置クコトヲ要ス

第七條 保姆免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ之ヲ有セサル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコトヲ得但シ保姆免許狀ヲ有セサル者ノ數保姆免許狀ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

特別ノ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ當分ノ内期間ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第八條 公立幼稚園ノ園長タルヘキモノハ小學校ノ本科正教員又ハ保姆免許狀ヲ有スル者若ハ教員免許狀令ニ依ル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第九條 保姆檢定ハ分テ無試験檢定及試験檢定トシ學力、性行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ保姆ノ無試験ヲ受クルコトヲ得

一 小學校ノ本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者若ハ一

般ノ専門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ合格又ハ卒業後一年以

上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ従事シタル者

三 専門學校入學資格ヲ以テ入學資格トスル學校ニ於テ一年以上幼兒ノ保育ニ適スル教育ヲ受ケテ

卒業シタル者

四 従前ノ規定ニ依リ保姆免許狀ヲ取得シタル者ニシテ三年以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ従事シタル者

五 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適當ト認めタル者

第十一條 保姆ノ試験檢定ハ左ノ科目ニ就キ尋常小學校本科正教員ノ試験檢定ノ程度ニ準シ之ヲ行フ

修身 道德ノ要旨

教育 教育、兒童心理、教授法及管理法ノ大要

保育 育兒法、保育法、保育項目ニ關スル事項ノ實際

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀、作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、步合算、比例

歴史 國史ノ大要

地理 地理ノ大要

理科 理科ノ大要

圖畫 自在畫

手工 手工ノ大要

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 體操、遊戲及競技

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

第十二條 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專問學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者若

ハ一般ノ專問學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ修身

教育、保育、圖畫、手工、音樂、體操以外ノ學科目ニ限リ其ノ試驗ヲ缺クコトヲ得

第十三條 小學校令施行規則第四百四條、第四百十四條、第一百五條、第一百十九條乃至第二百一十一條ノ規

定ハ保姆ノ檢定及免許狀ニ關シ之ヲ準用ス

第十四條 幼稚園ノ職員ノ進退、職務、服務、懲戒、處分、業務停止及免許狀褫奪ニ關シテハ小學校

職員ノ例ニ依ル

第十五條 公立幼稚園ノ職員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ小學校令施行規則中小學校職

員ノ例ニ準シテ地方長官之ヲ定ム

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ園長ハ學校長ニ、保姆ハ正教員ニ、代用保姆ハ代用教員ニ準ス但シ月

俸額ニ付テハ園長ハ本科正教員ニ、保姆ハ專科正教員ニ準ス



第十七條 幼稚園ヲ設置セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテ

ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ

一 名稱

二 位置

三 園則

四 設備

五 經費及維持ノ方法

六 開園ノ期日

七 私立幼稚園ニ在リテハ設立者ノ履歷書

前項第一號及二號ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第三號及第六號ノ變更ハ地方長官ニ開申スヘシ

位置ニ關シテハ敷地ノ面積、地質及附近ノ情況建物ノ配置ヲ記載シタル圖面及飲料水ノ定量分析表

ヲ添付スヘシ

第十八條 幼稚園令第六條但書ノ規定ニ依リ三歳未滿ノ幼兒ヲ入園セシメムトスルトキハ之ニ要スル

施設ノ概要ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 敷地ハ道德上及衛生上害ナキ所タルコト
  - 二 建物ハナルヘク平家造トシ組數ニ應スル保育室、遊戲室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フルコト
  - 三 保育室ノ大サハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナラサルコト
  - 四 遊園ハ幼兒一人ニ付ナルヘク一坪以上ノ割合ヲ以テ設クルコト
  - 五 保育用具、玩具、繪畫、樂器、黑板、机、腰掛、砂場等ヲ備ヘ其ノ他衛生上ノ設備ヲ爲スコト
- 三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムルモノニ在リテハ前項ノ外之ニ要スル相當ノ設備ヲ爲スヘシ
- 第二十條 建物ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受ケ位置ノ變更ニアラサル敷地ノ變更ハ圖面ヲ具シ地方長官ニ開申スヘシ
- 第二十一條 幼稚園ヲ廢止セムトスルトキハ公立幼稚園ニ在リテハ管理者ニ於テ、私立幼稚園ニ在リテハ設立者ニ於テ廢止ノ事由及期日並廢止後ノ幼兒ノ處分方法ヲ具シ地方長官ニ申請スヘシ
- 第二十二條 公立幼稚園ノ費用負擔者又ハ私立幼稚園ノ設立者ヲ變更シ、私立幼稚園ヲ公立幼稚園ニ、公立幼稚園ヲ私立幼稚園ニ變更セムトスルトキハ第十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第二十三條 園則中ニ規定スヘキ事項左ノ如シ
- 一 幼兒ノ定員及入園年齢ニ關スル事項

二 入園及退園ニ關スル事項

三 保育課程

四 保育期ノ區分、保育日數、每週保育時數、始業終業ノ時刻等ニ關スル事項

五 保育料、入園料等ニ關スル事項

附 則

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ保姆檢定ニ關スル手續ヲ開始シタルモノニ在リテハ仍從前ノ規定ニ依ル

〔參照〕

明治三十三年<sup>八月二</sup>十一月二日 文部省令第十四號小學校令施行規則抄錄

第四百條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教育ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 (削除)

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第百十四條 試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキ

ハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試験檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル試験ノ

科目ヲ闕ク

第百十五條 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第百十九條 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナ

ル事項ヲ記入スヘシ

第百二十條 免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ

再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘ

シ

第百二十一條 免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ府縣知事之ヲ公告ス

# 幼稚園令及幼稚園令施行規則制定ノ要旨竝施行上

## ノ注意事項 (文部省訓令 第九號)

今般勅令第七十四號ヲ以テ幼稚園令ヲ公布セラレ文部省令第十七號ヲ以テ幼稚園令施行規則ヲ公布セリ今左ニ之カ制定ノ要旨ヲ舉ゲ且其ノ施行上特ニ注意スヘキ事項ノ大要ヲ示サム

從來幼稚園ニ關スル事項ハ小學校令竝小學校令施行規則中ニ規定セラレタリ然レトモ時勢ノ進運ニ伴ヒ幼稚園ノ事業ハ漸ク順當ニ發達シ來リタルヲ以テ其ノ制度ニ就キテ考慮ヲ要スルノミナラス當今我カ國ニ於ケル社會ノ情勢ニ鑑ミテ一層其ノ施設ヲ改善スルノ必要アルヲ認ムコレ幼稚園令ノ公布ヲ見ルニ至リタル所以ナリ

兒童ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養セムトスルニハ幼時ヨリ之ニ著手スルヲ以テ優レリトスコレ家庭教育ヲ裨補スヘキ幼稚園施設ノ必要アル所以ナリ殊ニ社會生活日ニ複雑ヲ加ヘ一家ノ事情意ヲ子女ノ教養ニ專ラニスルコト能ハサル者漸ク多カラムトスル今日ニ在リテハ幼稚園ノ任務ハ益々重要ノ度ヲ加ヘサルヲ得ス

幼稚園ノ設置ハ固ヨリ之ヲ任意トシ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ私人ヲシテ必要ニ應シテ之ヲ設置スルヲ得シムト雖父母共ニ勞働ニ從事シ子女ニ對シテ家庭教育ヲ行フコト困難ナル者ノ

多數居住セル地域ニ在リテハ幼稚園ノ必要殊ニ痛切ナルモノアリ今後幼稚園ハ此ノ如キ方面ニ普及發達セムコトヲ期セサルヘカラス隨ツテ其ノ保育ノ時間ノ如キハ早朝ヨリ夕刻ニ及ブモ亦可ナリト認ム又幼稚園ニ入園セシムヘキ幼児ノ年齢ニ就キテハ從來ノ規定ト同シク三歳ヨリ尋常小學校就學ノ始期ニ達スルマテヲ原則トスルモ特別ノ事情アル場合ニ於テハ三歳未滿ノ幼兒ヲモ入園セシメ得ルコトトセリ之ヲ外國ノ實例ニ徵スルニ幼稚園ニ孩兒預所ヲ附設スルモノ尠カラス爲ニ特別ノ事情アル家庭ニ對シ便益ヲ與フル所頗ル大ナルモノアルカ如シ右ノ規定ニ依リ三歳未滿ノ幼兒ヲ收容セムトスルニハ相當ノ設備ヲ要スルコト論ヲ俟タスト雖事情ノ許ス限リニ於テ適當ニ之ヲ實施スルハ當今ノ時勢ニ照ラシ亦極メテ必要ナリト信ス

園長及保姆ノ資格ニ關シテハ公立幼稚園ノ園長タルヘキ者ハ小學校ノ本科正教員又ハ保姆ノ免許狀ヲ有スル者若ハ教員免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有スル者トシ保姆ヨリ之ヲ兼スルヲ常例トスヘク保姆ハ保姆免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要シ概ネ尋常小學校本科正教員程度以上ノ者ヲ以テ之ニ充テムトス蓋シ保育ノ事タル決シテ輕易ノ業ニアラス保育ノ任ニ當ル者ノ人格カ幼兒ニ及ホス影響モ決シテ鮮少ナラス故ニ園長及保姆ニハ教育者タル相當ノ素養アルコトヲ必要ナル條件トシ前記ノ資格ヲ定メタルナリ但シ保姆ノ資格ヲ有セスト雖人物伎倆相當ナル者ハ一定ノ員數内ニ於テ代用保姆トシテ之ヲ採用スルコトヲ得シメタリ

凡ソ教育上ノ效果ハ職トシテ教育者其ノ人ノ適否如何ニ由リ校舍設備ノ若キニ至リテハ寧ロ第二義ニ屬ス是ノ故ニ幼稚園ノ設備ニ關シテハ其ノ大綱ヲ規定スルニ止メカメテ土地ノ狀況ニ適應セシメ且其ノ設置ヲ容易ナラシムコトヲ期セリ

右ノ外幼稚園ノ幼兒數、保母一人ノ保育スル幼兒數等ハ略々従前ノ規定ニ從ヘリ唯保育項目ハ遊戲、唱歌談話、手技ノ外觀察ヲ加ヘテ自然及人事ニ屬スル觀察ヲナサシムルコトトシ尙從來ノ如ク其ノ項目ヲ限定セス當事者ヲシテ學術ノ進歩實際ノ經驗ニ應シテ適宜工夫セシムルノ餘地ヲ存シタリ  
地方長官ハ宜シク前記ノ趣旨ヲ體シ幼稚園保育ニ従事スル者ヲ督勵シテ一層其ノ實績ヲ舉ゲシムルコトヲ期セララルヘシ

大正十五年四月二十二日

文部大臣 岡田良平